

2014年度 年次報告書

2014年4月1日～2015年3月31日



インドネシア・ベテスダ病院の新生児室で働く元奨学生


医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人

日本キリスト教海外医療協力会

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書13章34節



日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）は、日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現を願って1960年に設立されました。JOCSは、キリストの愛の精神に基づき、困難の中にある人々の健康といのちをまもり、人々と、苦悩と喜びを分かち合います。

JOCSがパキスタンに派遣した青木盛医師は、6年間の活動を終えて帰国しました。新生児死亡率がとても高いパキスタンにある病院で、青木医師は、新しく生まれていのちをまもるため、イスラム教徒の看護スタッフと共に奮闘しました。そして、生きるのが難しいと思われた多くの赤ちゃんのいのちが救われました。赤ちゃんとその家族には希望が、病院のスタッフには「みんなで生きる」喜びが生まれました。

国や宗教の違いをこえ、いのちをまもるために共に生きる活動は、隔ての壁を取り除き、いつの日か平和な社会の実現につながると、私たちは信じています。

感謝と新年度への期待をこめて

皆さまには、日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）を日頃からご支援いただきまして、まことにありがとうございます。お陰さまで、2014 年度も神様の御導きのもと、海外における保健医療活動を軸に、「プロジェクト・りとる」や途上国で医療従事者を目指す若い人々への奨学金支援、さらには東北の人々のもとへの訪問活動など、幅広い活動を行うことができました。

2014 年度は、使用済み切手収集運動 50 周年にあたる年でもありました。東京ではゴスペルコンサートを、関西（大阪）では谷川俊太郎さんと末盛千枝子さんによる対談を、それぞれ記念の催しとして行いましたが、ご支援くださる大勢の皆さまのご来場をいただくことができて、ほんとうにありがとうございました。

また、パキスタンにおいて、2 期 6 年にわたり、新生児のいのちを守る活動を続けてまいりました青木 盛しげる小児科医は、2014 年 9 月、任期を無事に終えて帰国いたしました。一方、バングラデシュにおいて、障がいのある子どもたちのためにやはり 2 期 6 年にわたり活動してまいりました山内章子理学療法士は、2015 年 2 月に帰国、次の第 3 期 3 年間にわたる活動に備えて、現在短い休暇に入りながら、国内でこれまでの活動報告を続けております。

2015 年度は、この山内章子理学療法士の派遣に加え、4 月から弓野綾医師をタンザニアへ派遣いたします。

なお、これまで 9 年間にわたり事務局を統括していただきました大江浩前事務局長は、3 月に日本 YMCA 同盟に転出され、新事務局長には森田隆海外事業部長（兼任）が就任いたしました。新年度からは、名取智子事務局次長（マーケティング部長・管理部長兼任）



とともに事務局運営にあたります。大江前事務局長には、JOCS の 50 周年記念事業や公益社団法人への移行、そして東日本大震災などもあった JOCS と日本にとって節目の時に、JOCS のため、また途上国の保健医療向上のため、心血を注いでお働きくださいましたことに心からの謝意を表したいと思います。

最後に、これまで 9 年間会長の役目を仰せつかってまいりましたが、新年度 6 月の総会の折に会長も交代し、新会長のもと JOCS の新しい歩みをはじめるとい機会としていただきたいと願っております。これまでに賜りましたご指導・ご鞭撻に心から感謝申し上げますとともに、皆さまのうえに神様の豊かな祝福がありますように、また、世界の人々、特に貧しく小さくされている女性や子どもたちのいのちが平和のうちに日々守られますようにと祈りつつ、年次報告のご挨拶といたします。

2015 年 4 月

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

会長 小島 莊明

目次

4	会長挨拶	14	国内の動き
5	JOCS とは／ 2014 年度活動地・支援先	16	会計報告
6	ワーカー派遣	18	広がる支援の輪
8	奨学金支援	19	支援方法／会員数・役員
10	協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	20	使用済み切手の収集にご協力ください
12	東日本大震災被災者支援		

JOCS とは

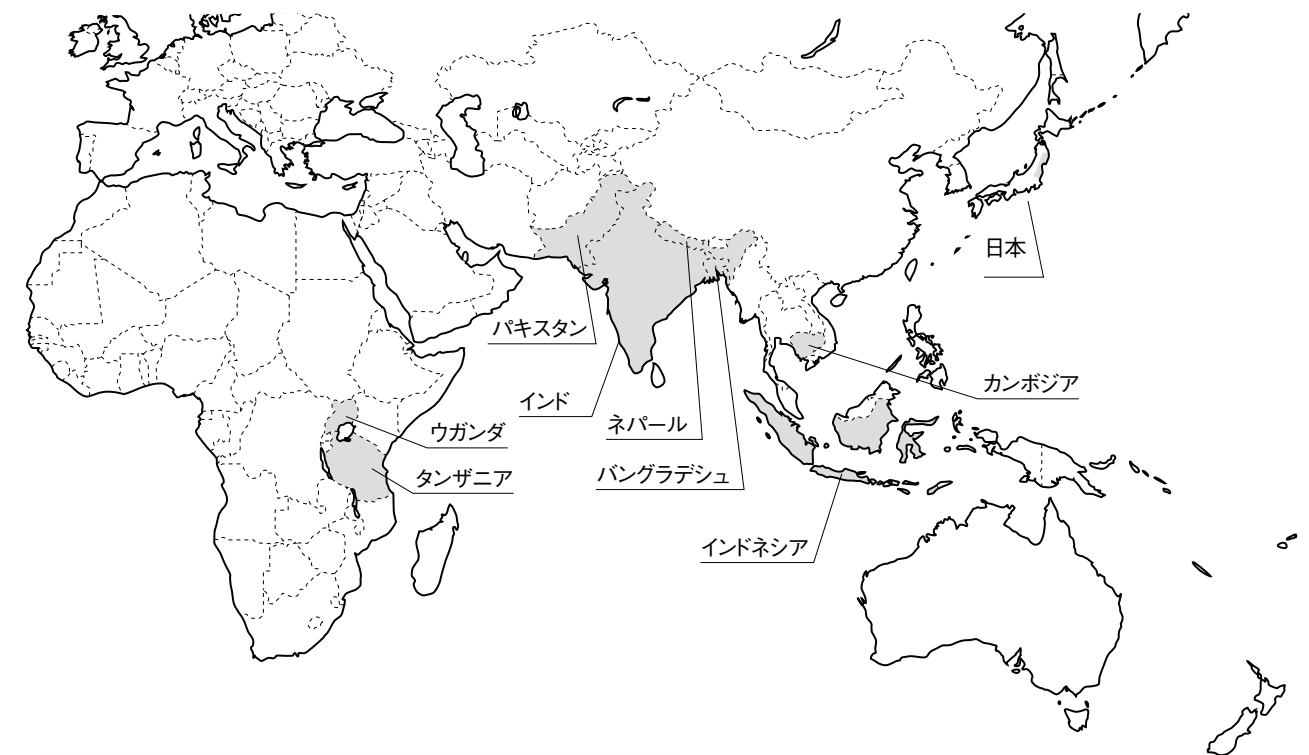
1960 年の創立以来、保健医療従事者のアジア・アフリカ諸国への派遣や奨学金支援、協働プロジェクトを通じて、海外保健医療協力を行っています。キリストの愛の精神に基づき、すべての人々の健康といのちがまもられる世界を目指しています。

ワーカー派遣

奨学金支援

協働プロジェクト

●2014 年度 活動地・支援先



インドネシアの看護学生



バングラデシュ・ラルシュコミュニティの女性



タンザニア・タボラ大司教区の病院で働く女性

アジア・アフリカの地域の 人々とともに歩む

派遣されたワーカー（保健医療従事者）は、地域の人々とともに、苦悩と喜びを分かち合いながら、健康といのちをまもるために活動しています。JOCSは、ワーカーの任期終了後も活動が派遣先団体や地域の人々によって引き継がれていくことを目標としています。

2014年度は、長期ワーカーをバングラデシュに2名、パキスタンに1名を派遣しました。また、新しいワーカーが2015年4月からタンザニアで活動するため、赴任に向けた準備に入りました。

バングラデシュ

●パートナー団体（場所）

PCC（障がい者コミュニティセンター）
（マイメンシン）

●派遣の背景・目的

バングラデシュの貧しい人々の間にはリハビリテーションはまだ浸透しておらず、障がいがあってもリハビリテーションをすれば身体機能が改善することを知らずにいる人々がいます。また早く治療をすれば障がいが残らなかったかもしれないのに、貧しく病院に行けなかったために身体機能が回復せずに障がいを持ちながら生活している人もいます。バングラデシュの人々にリハビリテーションを届かせるには、地元の人が理学療法技術者（リハビリテーションする人）の働きをする必要があります。JOCSは理学療法士を派遣し、都市から離れた地域で理学療法技術者を育てています。

●派遣ワーカー（職業）

山内章子ワーカー（理学療法士）

●2014年度の主な活動・成果

バングラデシュの地方の4つの県を定期的に訪問し、理学療法技術者の技術や知識の向上に努め、基礎的なリハビリテーションを提供することができるようになりました。また彼らの仕事上の悩みや行きづまりを一緒に考え、解決するように心がけました。



●パートナー団体（場所）

ラルシュ・マイメンシン コミュニティ
（マイメンシン）

●派遣の背景・目的

ラルシュは知的な障がいのある人たちと障がいのない人たちが共に暮すコミュニティです。JOCSワーカーは、このコミュニティがバングラデシュで法的に認可され、地域の人たちから受け容れられ、知的な障がいのある人たちの個性や豊かさが人々に広く認識されるよう、コミュニティの基礎づくりを支援しています。

●派遣ワーカー（職業）

岩本直美ワーカー（看護師）

●2014年度の主な活動・成果

知的な障がいがあるメンバーたちとアシスタントたちがラルシュ 50周年記念事業に参加するために渡仏し、違いをこえて共に生きる喜びを分かち合いました。家族のいないメンバーがパスポートを取得し、海外に渡航するのは非常に難しいことです。岩本ワーカーが取得のために奔走し実現することができました。また、家族のいないメンバーたちの将来の保障のため、土地を購入できるように資金獲得を支援しました。2014年にマイメンシンに土地を購入し、メンバーたちが快適に過ごせるようにインド人建築家がメンバーたちの意見を取り入れ設計をしました。



パキスタン

●パートナー団体（場所）

聖ラファエル病院

（パンジャブ州 ファイザラバード）

●派遣の背景・目的

パキスタンでは、新生児（生後1カ月未満）死亡数がとても多く、WHO（世界保健機関）2012年の統計では出生数1,000人あたり36人にもものぼります（日本では1人）。聖ラファエル病院では年間約1,700人の赤ちゃんが生まれますが、25～40人くらいが亡くなってしまいます。

自宅分娩の多いパキスタンでは、病院で出産をするのは過去に死産を経験した妊産婦が多く、緊急手術を要したり、未熟児や娩出児が仮死状態で生まれ早く適切な治療が求められたりするケースが多くみられます。同病院には小児科

医がおらず、スタッフの技術も十分ではありませんでした。そのためJOCSから小児科医を派遣し、新生児の治療にあたりとともにスタッフの育成にも努めました。

●派遣ワーカー（職業）

青木盛^{しげる}ワーカー（医師）

●2014年度の主な活動・成果

外来診療と入院児のケアを行いました。また、それらのケースの対処法をスタッフに説明していくことでスタッフの能力が向上し、スタッフだけで対処できるようになっていきました。

青木ワーカーの任期が2014年9月に終わったため、今後はワーカーから指導を受けたスタッフが、後輩を指導していくことが期待されています。

将来を担う世代を育てる ～保健医療従事者の育成のために～

アジア・アフリカの国々には、人々が保健医療サービスを受けにくい地域が多くあります。JOCS では、そのような地域で働く保健医療従事者に、奨学金の支給を通して研修の機会を提供することで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。選考の際には、研修後に自らの故郷にとどまり、その地域の人々のために働きたいと願う人を奨学生として選んでいます。



インドネシアのシナルカシ病院で働く元奨学生たち

インドネシアのシナルカシ病院では、これまでに全スタッフの約半数にあたる 31 名が JOCS の奨学金で研修を受けました。そのほとんどが研修終了後には病院に戻り、地域の人たちの健康をまもるために働いています。その中心となっているのが、病院長のヨンベルト医師（上の写真

前列左から 2 番目）です。ヨンベルト医師は、助産師だった 32 歳の時、当時同じ病院で働いていた長尾真理ワーカーの勧めで JOCS の奨学金を受け、医師となりました。地域の人たちのために献身的に働くその姿を見て、医師や看護師を志す若者たちがいます。

マルディ・タドウさん（インドネシア・シナルカシ病院）

私は小さいころから友人や親せきが病気で命を落とすのを見て、医師になりたいと思っていました。しかし、家にお金がないためあきらめていました。2005年に病気で父を亡くし、一度はあきらめた医師になるという夢を再び持つようになりましたが、母にそのことを相談できず、高校卒業後はシナルカシ病院の薬局で受付の仕事をしていました。病院で JOCS の奨学金のことを知り、必死で勉強して大学の医学部に合格することができました。奨学金を受けて医学部に進んでからも日々の勉強はとても大変で、寝る時間もないほどに勉強しました。卒業できた時はとてもうれしかったです。とくに、卒業式に出席し誇らしげな顔をしている母を見たとき、うれしく感じました。今は、都市部にある総合病院で研修医として働いていますが、研修後はシナルカシ病院に戻って地域の人たちのために働きます。研修中に少しでも多くのことを学びたいと思っています。ヨンベルト医師のような、地域の人たちに信頼される医師になることが私のこれからの目標です。



卒業式でのマルディさん（左）と、叔父、母親

2014 年度は 78 人の保健医療従事者に奨学金を支給しました。うち 29 人は 2014 年度に研修を修了し所属団体での勤務を開始し、残りの 49 人は 2015 年度も研修を継続します。

奨学金申請の傾向としては、基礎教育への申請が多い国（ウガンダやタンザニア）と、専門分野や修士への申請が増えてきた国（インドネシアやネパールなど）があります。

2014 年度にはタンザニア、インドネシアおよびバングラデシュでモニタリングを行い、国の保健医療の状況やパートナー団体の人材育成の方針について聞き取りを行いました。また JOCS の奨学金で学んだ保健医療従事者に会い、奨学金で受けた研修が今の仕事に役立っていることを確認しました。

2014 年度奨学金支援

	国名	支援先	奨学生数	研修内容	申請の特徴	2014 年度新規 合格者数/ 申請者数
アジア	インド	クリスチャン・フェロー シップ病院	5 名	歯学 2 名 医学 1 名 看護系 2 名 (学士 1 名、修士 1 名)	例年、病院のニーズに合わせた申請がある。今年度は歯学と看護学修士の申請があった。	2/2
	インドネシア	シナルカシ病院など、 *ICHAS 傘下にある 医療施設	9 名	看護学 4 名 (看護学士 2 名、修士 2 名) 助産学 2 名 医学 1 名 栄養学 1 名 薬学 1 名	既に基礎的な分野での研修を終え、資格を持って看護師として病院で勤務しているが、正看護師資格の取得のためまたは看護学校講師になるために看護学修士取得のための奨学金を希望する応募者が多い。	0/4 14 年度は、JOCS が支援すべき研修 内容とは認められ なかったため、全 員不合格とした。
	ネパール	*HDCS 本部、HDCS が運営する病院 /*UMN タンセン病院 /*LMN アナダバン 病院 / ライトプール看 護学校 / タンセン看護 学校	19 名	看護系 8 名 (看護師 6 名、修士 2 名) 薬学 2 名 医用画像工学 1 名 経営学 1 名 検査技師 1 名 公衆衛生 1 名 小児医学 1 名 小児看護修士 1 名 ヘルスクアマネジメント修士 1 名 理学療法 1 名 臨床検査 1 名	既に基礎的な分野での研修を終えている職員が多く、専門的な分野への応募が増えてきている。また、医療の知識や技術だけでなく、病院の運営や地域保健医療をより効率的に安定して行うため、経営やマネジメント分野を学ぶことを希望する学生も多い。	5/9
	バングラデシュ	セントビンセント病院、 *PIME シスターズ	8 名	基礎看護 4 名 理学療法技術者 3 名 理学療法士 1 名	ワーカーの活動に関連したスタッフからの申請が多かった。	5/5
アフリカ	ウガンダ	チオコ病院など *UPMB 傘下の医療 施設と、Reach Out (エイズ患者のための施設)	24 名	看護系 5 名 (看護師 3 名、修士 2 名) 助産師 7 名 医学系 (公衆衛生等) 7 名 臨床検査 1 名 麻酔学 3 名 薬学 1 名	看護師・助産師のほか公衆衛生など医学系の奨学生が多い。2013 年度モニタリングで、UPMB が明確なビジョンをもち職員育成を行っていることが判明したため、今回の選考では UPMB の優先順位を尊重して合格者を決定した。	11/30
	タンザニア	タボラ大司教区保健 事務所の傘下にある 10 の保健医療施設	13 名	看護師・助産師 7 名 医学 3 名 看護師 1 名 放射線診断 1 名 臨床検査 1 名	医療従事者の数が不足しており、基本的な短期研修を受けただけで助手として勤務している職員も多く、看護師・助産師など基礎的な分野での研修の希望が多い。医療施設が病院やヘルスセンターに格上げになるのに伴い、資格を持った職員の育成が急務となっている。	7/7

*ICAHS-Indonesia Christian Association for Health Services（インドネシアキリスト教保健サービス協会）

*HDCS-Human Development and Community Services（ネパールのキリスト教系 NGO）

*UMN-United Mission to Nepal（ネパール合同ミッション・ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO）

*LMN-The Leprosy Mission Nepal（ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO）

*PIME シスターズ・Pontificio Istituto Mission Estere（カトリック・ミラノ外国宣教会）

*UPMB-Uganda Protestant Medical Bureau（ウガンダプロテスタント医療連盟）

協働プロジェクト (プロジェクト・りとる)

現地の力を活かした 協力の形

現地の人々や現地団体が主体となって行う保健医療活動に協力しています。2014年度は、バングラデシュ、タンザニアに加え、カンボジアでもプロジェクトを行いました。



マラリア検査をするスタッフ

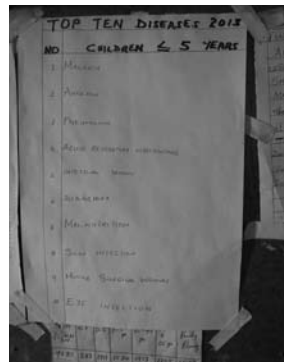
タンザニアで協働プロジェクトが進んでいます。このプロジェクトでは、タボラ大司教区保健事務所（TAHO）が、傘下の医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックできるようになることを目指しています。このプロジェクトにより、各保健医療施設が地域の保健医療状況を把握できるようになり、保健医療サービスの改善につながることを期待されています。

TAHOでは各医療施設から、患者の人数、性別、病名、各医療施設で行った手術、予防接種および分娩の数、マラリアやHIV/AIDSの検査数などの情報を収集しています。まだ各医療施設から提出される診療統計に計算間違いや誤記が見られ、提出の遅れなどの問題もありますが、TAHO担当者の指導によって徐々に改善が見られていま



データについて検討するスタッフとJOCS職員

す。TAHOの担当者は、各医療施設から収集したデータを自分でパソコンの統計ソフトに入力し、集計結果を得ることができるようになりました。医療施設の中には、自分たちが収集したその診療所で多い病気などの統計を待合室に掲示し、地域の人たちと共有する取り組みを始めたところもあります。



掲示された診療統計のデータ

診療統計分析能力強化プロジェクト（タンザニア） 地域に多い病気を調べ、対策につなげています。

●パートナー団体

TAHO（タボラ大司教区保健事務所）

●対象地域

タンザニア タボラ大司教区

●支援対象者

TAHOとその傘下の10の保健医療施設（病院や診療所など）

●活動の背景

患者の人数、性別、病名などの情報を収集、分析し、その結果を医療施設と共有することは、その地域の保健医療状況を把握し、保健医療サービスの改善を行う上で非常に重要です。タンザニア政府も各医療機関の診療統計を収集していますが、各医療機関にその結果はほとんど共有され

ていません。

●2014年度の主な活動内容と成果

JOCS職員が3回タンザニアへ出張し、プロジェクトの進捗状況を確認しました。TAHOではこれまで四半期データと年次データを収集しており、四半期データに関しては、TAHOが自ら作業できるようになりました。しかし、タンザニア政府がデータ収集の方針を大きく変更し、現場担当者の負担が増えたため、表の改訂が再度必要になりました。1月の出張時に、医療施設の担当者や医師を含めて協議を行い、現場の意見を聞きながら表の改訂作業を行いました。

学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

「病気にならないように、食べる前には手をしっかり洗うんだよ!」

●パートナー団体

BDP（ベーシック・ディベロプメント・パートナーズ）

●対象地域

バングラデシュ ダッカ、プバイル

●支援対象者

BDPの運営する学校に通う生徒（約3,000人）：ダッカ・ミルプール地区4小学校、ガジプール県プバイル地区10小学校、計14校

●活動の背景

バングラデシュでは、健康や保健衛生について学んだり健康診断を受けたりする機会をもたずに成長する子どもたちがたくさんいます。貧富の差が拡大している同国では、貧しい家庭の子どもたちはとくに自らの健康を守るすべ

知らずに成長し、子育てをすることになります。

●2014年度の主な活動内容と成果

学校での保健教育の授業が順調に進んでいます。授業を通し、子どもたちは個人衛生や栄養などに関する正しい知識を身につけ、実践できるようになっています。また、保護者会などの機会を通して、保健教育への理解を深める働きかけを行っています。授業で習ったことを親や兄弟に伝え、家族ぐるみで実践している様子もみられるようになりました。



「手をきれいに洗いましたか?」「はい!」

SALT プロジェクト〈地の塩プロジェクト〉（カンボジア） 健康についての知識向上に向けて

●パートナー団体

バタンバン司教区、バタンバン司教区運営のヘルスセンター

●対象地域

カンボジア バタンバン州

●支援対象者

バタンバン司教区運営のヘルスセンターと協力関係にある小学校と中学校

●活動の背景・目的

カンボジアは内戦終結以降、順調に発展しています。また18歳未満人口が多く若年層による社会の変化が期待できる国です。バタンバン州は発熱時に適切な医療機関を受診した子どもの割合がカンボジアで下から2番目であるなど、保健医療の状況は必ずしも芳しくありません。パッ

タンバン司教区の運営するヘルスセンターでは、治療だけでなく予防にも力を入れており、今回、バタンバン司教区が関係する学校の子どもに、健康に関する知識の向上を目的とした健康教育を実施することにしました。

●2014年度の主な活動内容と成果

2014年10月からプロジェクトを開始し、小学校5校、中学校1校を対象に健康教育を実施しました。また、開始と同時に、プロジェクト実施による変化をみるための基礎調査（ベースラインサーベイ）を実施しました。



学校での爪の検査

被災地の人々に寄り添う

各地域の支援団体や社会福祉協議会などと連携しながら、それぞれの地域のニーズに合わせた活動を行っています。とくに弱い立場におかれた人たちの支援や心のケアに力を入れています。

これらの活動は、東日本大震災被災者支援のための指定寄付としていただいた資金によって行うことができました。(指定寄付会計報告は16ページ)



集会所に貼られた健康相談開催のお知らせ（福島県いわき市）

福島県いわき市

●支援の背景

いわき市では、津波による被災者や原発事故による避難者が仮設住宅で暮らしています。復興住宅の建設が職人や資材不足等で遅れ、避難生活は4年もの長きにわたりました。

●支援対象者と支援内容

いわき市仮設住宅集会所に月2回、医師・保健師が訪問し、仮設住宅で暮らす方々の健康相談を実施しました。震災から1年後の2012年4月から3年間に約60回、医師3名と保健師3名が交代で訪問相談活動を行いました。毎回相談に来られていた方々が復興住宅に入居され、2015年3月末をもって活動を終了しました。

●成果

血圧測定や健康状態の相談のほか、音楽にあわせての体操やマッサージもしました。継続して訪問したことで、被災者の方々が心を開いて、相談日を楽しみにしてくださるようになりました。仮設住宅は公共交通機関の便がよくな

い地域にあり気軽に出かけることが難しかったため、外部から人が来て定期的に相談できる機会があることは、被災者の方々にとって助けとなりました。

2014年秋から、復興住宅への入居が順次開始されました。住宅の完成を待っている方々は、4年間仮設住宅で慣れ親しんだ人と離れ、復興住宅で再び新しく人間関係をつくっていかねばならないことへの不安を口にされるようになりました。高齢になって何度も大きな環境の変化に直面することは大変なストレスですが、復興住宅が完成し転居するまで相談活動を続けたことで、仲間を見送る寂しさや新生活への不安を和らげることができました。



集会所での体操のようす

福島県内児童養護施設

●支援の背景

福島県内の児童養護施設には、様々な事情から親元に帰ることのできない子どもが生活しています。低線量被ばくによる健康被害は、現代の科学では正確に予測することは不可能です。予防のためには放射線量の低い地域に移住することが望ましいと言えますが、児童養護施設の子どもたちは県からの措置で入所しているため、自らの意思で施設から離れることはできません。健康被害を防ぐためには、最大限の予防を図るとともに、検査を継続して受ける必要があります。

●支援対象者と支援内容

特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（略称：ICA 福子）をパートナー団体としています。施設入所中の子どもと職員の個人被ばく線量測

震災被災者支援（釜石）

●支援の背景

震災から4年が経過し、多くの団体が活動を終えたり活動規模を縮小したりしています。一方で、被災地では復興への不安や焦り、避難生活の長期化による疲れやストレスから心身の不調を訴える人も増えています。

●活動内容

特定非営利活動法人カリタス釜石と協力し、次のような活動を行いました。

（1）看護チーム派遣

仮設住宅や復興住宅などを訪問し、傾聴や健康相談などの活動を続けています。また、カリタス釜石の行う「お茶っこサロン（仮設住宅集会所などで開かれている被災者同士

の交流の場）」へ協力を行っています。2014年度は計4回、延べ27名を派遣しました。加えて1名の看護師がほぼ毎月釜石を訪問し、カリタス釜石の活動に協力を行いました。

●成果

個人被ばく線量測定では外部被ばくを、尿中セシウム検査では内部被ばくの状況を検査することができます。これらの検査結果を施設職員一人一人に説明して、被ばく量低減につながるような生活の仕方について助言を行いました。県民健康調査の甲状腺検査は2年毎であり、治療が必要な病気の見落としや、適切な把握ができるのか疑問が残ります。1年毎に甲状腺検査を行うことで、甲状腺の異変の早期発見につながります。さらに検査時に、子どもたちが甲状腺検査の必要性を理解して今後も継続して検査を受けられるように、甲状腺の働きや、放射性ヨウ素が癌を引き起こすメカニズムについて説明をしました。

の交流の場）」へ協力を行っています。2014年度は計4回、延べ27名を派遣しました。加えて1名の看護師がほぼ毎月釜石を訪問し、カリタス釜石の活動に協力を行いました。

（2）カウンセラーの派遣

2014年9月まで毎月カウンセラーを派遣し、被災者の心のケアに取り組みました。加えて、支援者を対象にした心のケアに関する研修に協力を行いました。

●成果

家族や健康の問題など身近な人には話しにくいような内容について看護チームやカウンセラーが耳を傾けることで被災地の人たちの支えになっています。



（岩手県釜石市）

使用済み切手運動 50 周年記念イベント

1964年から始まった「使用済み切手収集運動」が2014年、50周年を迎えました。それを記念して、東京、大阪でそれぞれ記念イベントを開催しました。東京では9月13日（土）全電通ホールにて、「あつまれ！使用済み切手と仲間たち」と題して、切手トークイベントとチャリティーゴスペルコンサートを行いました。大阪では9月20日（土）、大阪市中央公会堂大集会室において、谷川俊太郎さん（詩人）と末盛千枝子さん（「3.11絵本プロジェクトいわて」代表）の対談を行いました。

それぞれの会場では、使用済み切手運動ポスターコンクール入選者の方々への表彰式や、長期間ボランティアとして活動してくださっている方々への感謝状贈呈式を行いました。



「使用済み切手運動ポスターコンクール」JOCS 大賞



上) 東京会場 下) 大阪会場

地区 JOCS 活動

地区 JOCS は地域の JOCS 会員と教会や YMCA など組織され、JOCS の活動を支えるために自主的な活動を行っています。2014 年度の主な活動は以下のとおりです。

仙台	仙台ちきゅうフェスタに出展（8月3日） 青木盛ワーカー報告会（1月10日）
足利	足利市民クリスマス（12月13日） 青木ワーカー報告会（1月18日）
町田	青木ワーカー報告会（12月14日、12月20日、3月1日）
京都	第10回チャリティーウォークソン（4月5日） 第36回チャリティーコンサート（7月26日） 青木ワーカー報告会（11月15日）
大阪	第6回大阪 JOCS カフェ ゲスト：畑野研太郎医師（6月20日） 第7回大阪 JOCS カフェ ゲスト：青木ワーカー（10月31日） 第8回大阪 JOCS カフェ ゲスト：山内章子ワーカー（3月28日）
神戸	石本馨短期ワーカー報告会（7月12日） 山内ワーカー報告会（2月28日）
芦屋	青木ワーカー報告会（11月16日）
四国高知	小島莊明会長特別講演会（5月25日） 高知スタンプショーに出店（11月8日～9日） 青木ワーカー報告会（11月30日）



インターンシップ受け入れ

2014年度は2名の大学生が、インターンシップとして JOCS 東京事務局のイベントに携わりました。主な活動内容は「仙台・石巻を訪ねる旅」企画・引率と、「グローバルフェスタ」企画・運営です。そのほか、事務局での事務作業を通して、海外での保健医療協力を国内から支えることを経験しました。



仙台・石巻を訪ねる旅

国際保健人材育成事業

海外での保健医療協力活動に興味・関心のある人、将来、国際保健医療協力活動に携わりたいことを希望する人を対象に、2014年度は以下のプログラムを開催しました。

●海外保健医療勉強会 「母子保健×国際協力」

母子保健分野の活動に従事してきた講師から、現地の状況や活動、母子保健に関連する用語やデータの読み方などを学びました。（敬称略）

- 2014年 6 月 国際母子保健「基礎編」（講師：倉辻忠俊）
- 2014年 8 月 パキスタンでの医療活動を通して、異文化の中で学んだこと（講師：岡野真弓）
- 2014年10月 母子保健活動の実際（講師：柳澤理子）
- 2015年 3 月 国際母子保健「実践編」（講師：倉辻忠俊）
- 特別企画 2014年11月 青木盛ワーカー報告会
- 2015年2月 キャリア開発編（講師：田代順子）



スライドを用いて講演する講師

●海外保健医療協力フィールドセミナー

2014年12月29日～30日 横浜市寿地区

テーマ：横浜市寿地区で弱い立場におかれた人々と活動する人々を訪ね、その働く姿勢を学ぶ。

参加者の感想

国際協力の現場と寿町で活動している人たちに共通するのは、人と人とのかわり方を大切にしていることだと思いました。夜回りのとき、リーダーから「大切なのは物を渡すことではなく、お話しすること」と説明を受けましたが、自分は積極的にお話しすることができませんでした。これからもこのような活動に参加し、もっと自然にお話しできるようになりたいです。信頼関係を地道に築くことが大切だと思いました。

講師派遣・事務局受け入れ

アジア・アフリカの保健医療の現状や JOCS の活動について学んでいただく機会を提供しています。事務局職員が教会や学校など各種団体を訪問し講演をする講師派遣や、修学旅行や教会などグループの事務局訪問受け入れを行っています。

2014 年度実績 講師派遣：23 回、事務局訪問受け入れ：11 回



高校への講師派遣



事務局訪問受け入れ
小さな子どもさんも来てくれました

ワーカー報告会

2名のワーカーが活動を終えて帰国し、教会や学校など各種団体で報告会を開催しました。主に、活動地の保健医療の現状、活動の成果、人々の暮らしなどについて説明し、現地での活動を分かち合う機会を持ちました。



教会での山内ワーカー報告会

皆様のお支えにより、2014 年度も海外での保健医療協力事業を遂行するとともに、東日本大震災被災者支援活動を実施できたことを感謝申し上げます。

公益法人の会計について

公益法人は、「貸借対照表」と「正味財産増減計算書」の作成が義務付けられています。「貸借対照表」とは、年度末時点での法人の資産、負債、正味財産の有高を示すものです。正味財産とは、資産から負債を引いた金額です。活動の結果、正味の財産が1 年間でどれだけ増えたのか、もしくは減ったのかを、その原因（収益、費用）とともに表したのが「正味財産増減計算書」です。

JOCS の財務状況

2014 年度に皆さまからいただいた受取会費は前年度に比べて約2%増加しました。これは会員の皆さまの継続率が向上したことによります。一方、受取寄付金は約9%減少しました。経常費用はカンボジアでの協働プロジェクト開始、より多くの方にJOCS の活動を知っていただくための切手50 周年記念イベント開催などにより、前年度より増加しました。その結果、正味財産は約1,800 万円減少しました。

2015 年度は、引き続き会員の皆さまとの細やかなコミュニケーションに努めるとともに、活動報告会やイベントを開催して、新規支援者を募集し収入の増加を目指します。

なお、ホームページ上で、財務状況のより詳しい内容をご覧いただけます。また、ご希望の方には、2014 年度事業報告・会計報告書、2015 年度事業計画・予算書をお送りいたします（送料実費）。事務局までお申し付けください。

■貸借対照表 2015年3月31日現在（単位：円）

Ⅰ 資産の部		Ⅱ 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	6,807,433
現金預金	44,091,686	2 固定負債	2,700,000
貯蔵品	8,133,861	負債合計	9,507,433
前払金	426,970	Ⅲ 正味財産の部	
2 固定資産		1 指定正味財産	28,577,987
特定資産	513,032,303	2 一般正味財産	543,032,166
その他固定資産	15,432,766	正味財産合計	571,610,153
資産合計	581,117,586	負債及び正味財産合計	581,117,856

■東日本大震災被災者支援指定寄付

寄付総額：23,252,727 円
（2010 年度70,000 円、2011 年度12,153,111 円、2012 年度6,088,125 円、2013 年度4,828,599 円、2014 年度112,892 円）
2014 年度末までに使用した金額の内訳は、以下のとおりです。

活動地	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	合計
岩手県釜石市	1,588,740	1,900,595	1,854,956	2,220,143	7,564,434
福島県いわき市	55,290	945,745	449,570	705,440	2,156,045
福島県内児童養護施設	987,000	2,554,614	810,370	1,240,503	5,592,487
宮城県仙台市	877,760	960,600	936,000	0	2,774,360
その他	80,749	277,071	0	0	357,820
合計	3,589,539	6,638,625	4,050,896	4,166,086	18,445,146

残額4,807,581 円は、2015 年度以降の活動に使わせていただきます。

■正味財産増減計算書 2014年4月1日から2015年3月31日まで（単位：円）△はマイナスを表す

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
	海外保健医療協力事業	使用済み切手運動事業		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①特定資産運用益	4,821,554	0	231,901	5,053,455
②受取会費	16,393,567	0	10,929,043	27,322,610
③事業収益（使用済み切手/書き損じハガキを含む）	1,624,482	23,506,507	0	25,130,989
④受取寄付金	78,427,739	0	8,144,091	86,571,830
⑤雑収益	444,502	14	2,611	447,127
経常収益計	101,711,844	23,506,521	19,307,646	144,526,011
(2) 経常費用				
①事業費	126,110,770	12,359,566	0	138,470,336
海外派遣費	20,084,954	0	0	20,084,954
海外交流費	5,248	0	0	5,248
奨学金	8,329,343	0	0	8,329,343
協働プロジェクト費	5,652,517	0	0	5,652,517
海外出張費	812,792	0	0	812,792
国内活動費	11,450,415	3,277,310	0	14,727,725
災害救援復興	4,166,086	0	0	4,166,086
研究活動費	203,088	0	0	203,088
会議費	208,240	0	0	208,240
切手50周年記念事業費	2,894,443	0	0	2,894,443
募金・寄付経費	4,033,564	0	0	4,033,564
人件費	48,137,056	3,895,718	0	52,032,774
事務所費	6,717,051	4,322,470	0	11,039,521
事務用品費	1,965,461	12,859	0	1,978,320
通信費	1,565,437	0	0	1,565,437
保険料	0	4,969	0	4,969
旅費交通費	288,866	0	0	288,866
諸費（租税公課）	0	305,000	0	305,000
退職給付費用	5,461,210	255,360	0	5,716,570
減価償却費	1,646,892	2,147	0	1,649,039
賞与引当金繰入額	2,488,107	283,733	0	2,771,840
②管理費	0	0	22,459,042	22,459,042
人件費	0	0	12,034,255	12,034,255
事務所費	0	0	1,679,257	1,679,257
事務用品費	0	0	491,349	491,349
会議費	0	0	1,285,006	1,285,006
通信費	0	0	391,344	391,344
保険料	0	0	165,051	165,051
支払手数料	0	0	4,438,482	4,438,482
旅費交通費	0	0	72,214	72,214
諸費（雑費）	0	0	1,596	1,596
退職給付費用	0	0	866,741	866,741
減価償却費	0	0	411,721	411,721
賞与引当金繰入額	0	0	622,026	622,026
経常費用計	126,110,770	12,359,566	22,459,042	160,929,378
当期経常増減額	△ 24,398,926	11,146,955	△ 3,151,396	△ 16,403,367
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
(2) 経常外費用（什器備品除却損）	309,360		77,343	
当期経常外増減額	△ 309,360	0	△ 77,343	△ 386,703
他会計振替額	8,000,000	△ 8,000,000	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 16,708,286	3,146,955	△ 3,228,739	△ 16,790,070
法人税、住民税及び事業税	0	229,500	0	229,500
当期一般正味財産増減額	△ 16,708,286	2,917,455	△ 3,228,739	△ 17,019,570
一般正味財産期首残高	509,508,304	10,540,194	40,003,238	560,051,736
一般正味財産期末残高	492,800,018	13,457,649	36,774,499	543,032,166
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
①受取指定寄付	3,159,892	0	0	3,159,892
②一般正味財産への振替額	△ 4,166,086	0	0	△ 4,166,086
当期指定正味財産増減額	△ 1,006,194	0	0	△ 1,006,194
指定正味財産期首残高	29,584,181	0	0	29,584,181
指定正味財産期末残高	28,577,987	0	0	28,577,987
Ⅲ 正味財産期末残高	521,378,005	13,457,649	36,774,499	571,610,153

広がる 支援の輪

JOCSの活動は、日本各地のたくさんの団体や学校、企業の皆さまに支えられています。とくに使用済み切手運動は、子どもからご年配の方までが無理なく続けられる身近な国際協力として取り組まれています。

「延岡草の実会」宮崎県延岡市 代表 岩永みどり

設立52年目を迎えた「延岡草の実会」です。使用済み切手運動に協力をするようになったのは、昭和40年9月からです。

毎月第1、3金曜日に作業をしています。気長に一枚一枚の切手と向き合っています。美しい切手や珍しい切手に出会えた時の嬉しさ、色々な話題がアチコチから聞こえてくるのも心地よいものです。「これからも地道な活動を続けていきたい」という会員の言葉に私はとても感動したものです。

会員も年を重ね、最高齢は92歳。そんな素敵な彼女に会員は皆元気をもらっている今日この頃です。



ザ・ボディショップ

私たちは英国の化粧品ブランド「ザ・ボディショップ」の店舗で勤務しています。創業者アニー・ロディックの企業理念に「企業には世界をよくする力がある」というものがあり、環境問題や人権問題などに常に向き合っている企業であるため、勤務時間内に月1回4時間程度のボランティア活動をする機会が全員にあたえられています。

勤務先に近いことから切手整理ボランティアに参加させていただき、昨年から、近隣店舗内でお客様からの切手収集のご協力もスタートさせました。

嬉しいことに、定年退職後、切手を届ける場所がなくなり困っていたというお客様や、近隣企業のOLさんに支持をいただき、たくさんの切手を店舗でも収集できるようになりました。

今後も地域と密着した活動として少しでもお力になればと思います。

(営業本部営業部関西第一エリア エリアマネージャー 東智子)

2014年6月スタート

私たちのボランティア活動

ーアジア・アフリカの人々の健康のために
使用済み切手収集にご協力くださいー



捜真女学校 神奈川県横浜市

捜真女学校では学内の様々な活動の中で、ボランティア活動が行われていますが、JOCSの活動への参加は50年以上になると思います。具体的には献金と切手集めです。中1から高3までの全クラスで週1回献げられる献金を、奉仕委員が集計し、1年分をまとめてJOCSを含む3団体に献げています。使用済み切手集めは、YWCAの生徒たちが各教室や教員室に箱を設置して集めています。学校全体で他者への思いやりの心を養うことや、奉仕活動が日常的に行われる中で、生徒たちは自然に取り組んでいます。今年度中学2年生は「総合学習」として、献金の行き先であるJOCSの活動について学びました。自分のことだけでなく、広く世界に目を向けて、恵みを分かち合い共に生きるための活動に、今後とも学校を挙げて積極的に参加していきたいと思っています。

(捜真女学校キリスト教教育委員 仁平のぞみ)



あなたの支援が健康を届けるチカラになります

会員を募集しています

ひとりでも多くの人へ健康を届けられるように、ぜひJOCSの会員となって継続的に活動をお支えください。

社員会員

(年10,000円以上の任意の額)

JOCSを構成する会員。総会の議決権、また理事・監事の選挙権・被選挙権をもちます。

一般会員

(年5,000円以上の任意の額)

JOCSの活動を支える会員。総会の議決権、また理事・監事の選挙権・被選挙権はありません。

入会・ご寄付の方法

■郵便振替

ゆうちょ銀行

(口座：日本キリスト教海外医療協力会 募金部 00170-3-13986)

入会の場合は、「入会申し込み」と払込票の余白にご記入ください。

■銀行振替

三井住友銀行 高田馬場支店

公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会 口座番号：普通 4186361

*お名前とご連絡先を事務局までお知らせください。

■クレジットカード

月々500円から。

ホームページ (<http://www.jocs.or.jp>) からお申し込みください。

*銀行・ゆうちょ銀行口座からの口座振替(月々又は年払)もご利用いただけます。
*当会へのご寄付、一般会員の会費は特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。

JOCS会員数

4,232名(うち社員会員366名) 2015年3月31日現在
2013年度比0.5%減(△22名)

JOCS役員(五十音順)

会長 小島莊明(医師・大学名誉教授) 常務理事 大友宣(医師)

理事 植松功(伝道者) 畑野研太郎(医師) 榛木恵子(団体職員)

東岡牧(看護師) 平本実(団体職員) 眞鍋まり(大学教員)

森田隆(JOCS事務局長)

監事 辻本嘉助(医師) 渡部芳彦(歯科医師、大学教員)

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

東京事務局(月～金 9:00～17:00、土日祝休み)

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 早稲田SIAビル4階

電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

使用済み切手運動に関するお問合せ 電話：03-3208-2418

関西事務局(月～金 9:30～17:30、土日祝休み)

〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階

電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278



障がいを持ちながら、生き生きと刺しゅうの仕事をする女性(バングラデシュ)



TAHO傘下のキバラパラ診療所で働く看護師



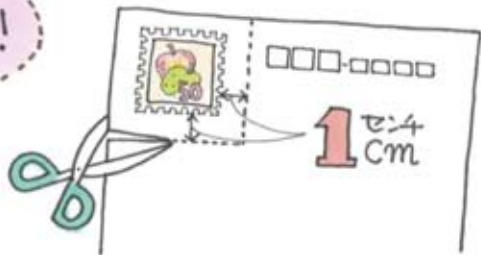
JOCSの奨学金で看護学校講師になった元奨学生(左)と教え子(右)

これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICの「アカウンタビリティ基準」の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。



アジア・アフリカの人々の健康のために
使用済み切手の収集にご協力ください

まず!



封筒やはがきに貼ってある切手を回り約1cm 残して切り取ってください。その際、消印が残せそうであれば残してください。切手をはがしていただく必要はありません。

その1



封筒の切手の裏側の紙は、切り取っておいてください。

その2

このような切手は、取り除いてください。



その3

●外国のものと日本のものに分けてお送りください。

●記念切手と通常切手を分けたり、枚数を数えたりしていただく必要はありません。



使用済み切手のほかに、次のものも集めています。

- 書き損じハガキ
- 未使用切手（古いものでも構いません）
- 外国コイン・紙幣、古銭

使用済み切手の送り先・お問い合わせ

JOCS 東京事務局

〒162-0045

東京都新宿区馬場下町 1-1 早稲田 SIA ビル 4F

電話 03-3208-2416 Fax 03-3232-6922

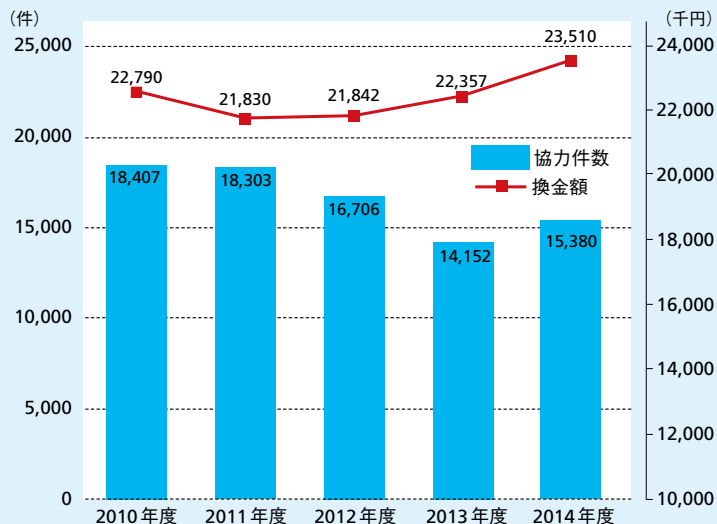
JOCS 関西事務局

〒530-0013

大阪市北区茶屋町 2-30 大阪聖パウロ教会 3F

電話 06-6359-7277 Fax 06-6359-7278

過去5年間の協力件数と換金額の推移



2014年度は、使用済み切手の協力件数が増加しました。また12月から1月にかけて実施した書き損じハガキ収集キャンペーンによりハガキの収集枚数が大きく増え、期間中だけで2万枚にのぼりました。加えて2014年から強化した外国コイン・紙幣収集により、これらのご寄付も増加しました。

この結果、2014年度は協力件数は15,380件、約2,351万円となり、換金額はここ数年で最高となりました。多くの皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。